

第 13 回 日野川水害タイムライン検討会

議事概要

日時：令和 7 年 12 月 5 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：日野川河川事務所・別館 2F 会議室、WEB 会議

【出席機関】

<対面>

- ・鳥取県 米子警察署
- ・福祉施設 なんぶ幸明苑

<WEB>

- ・米子市 防災安全課、長寿福祉課、水道局
- ・鳥取県 危機管理政策課、河川課、米子県土整備局
西部広域行政管理組合消防局
- ・気象庁 鳥取地方気象台
- ・ライフライン 中国電力ネットワーク（株） 米子ネットワークセンター配電課
米子ネットワークセンター変電課
- ・通信インフラ NTT西日本（株）
- ・報道機関 NHK 米子支局
- ・国土交通省 日野川河川事務所

【議事概要】

- 進行：日野川河川事務所 浜元流域治水係長

1. 開会挨拶（鳥取大学 三輪教授）

- ・日野川水害タイムライン検討会では、日野川水害タイムラインの運用を振り返り、また更新を繰り返しており、平時より皆様ご協力を得て運用している。
- ・一昨年（令和 6 年）の台風 7 号では、3 日前は東海地方を直撃という予測であったにも関わらず、進路がずれたことにより鳥取県を直撃し、タイムラインレベルは 4 まで到達した。事前の予測が必ずしも正しいとは限らないため、常日頃からの準備と不足の事態に対応することが大事である。
- ・昨年度と本年度は大きな出水こそなかったものの、来年度は分からない。そのため、日野川水害タイムラインの普段からの準備が、有事の際に役立つ。
- ・本日は事務局が用意した、日野川水害タイムラインの運用に関するアンケート結果に基づいた意見交換会となっており、皆様の忌憚りの無いご意見、ご質問をいただき、タイムラインをより良いものとしたい。

2. 令和7年度の振り返り

- ・事務局より、本年度の9月4日11時に発令した、日野川水害タイムラインレベル準備の当時の状況について説明した。
- ・事務局より、本年度の9月4日11時の日野川水害タイムラインレベル準備発令時に発出されたメールについて説明した。

3. 事前アンケート結果

- ・事務局より、事前に構成機関対象に実施した、本年度の出水対応の振り返りアンケート調査の回答結果及び対応案について説明した。

●質疑応答

鳥取大学 三輪教授：

ウェビナー不参加の理由の一つとして、「一部機関ではウェブ会議システムの都合で参加できない」と回答があるが、これはセキュリティ等の物理的な問題であるのか。次回は全構成機関が参加できるようにすることができるのか。

事務局：

ウェビナーは **Microsoft Teams** にて開催しており、参加できないと回答した機関はアプリをダウンロードしていなかったからであると考える。**Microsoft Teams** にはウェブ版もあり、アプリをダウンロードしていなくともこちらからウェビナーに参加することは可能である。ウェビナーの開催案内と併せ、こうした入室方法の周知を行うことで問題は解消できる。

鳥取大学 三輪教授：

マルチ画面は **PC** モニターのような大画面での使用を想定しているが、スマホのような小さな画面では情報はどのように閲覧できるのか。

事務局：

閲覧することは可能だが、情報量が少なくなってしまう。また、スマホ版の用意はできていない。

鳥取大学 三輪教授：

日野川水害タイムライン発動時に、担当者が必ずしも **PC** を操作できる環境下にいるとは限らないため、スマホでも利用できるような更新の検討をお願いしたい。

鳥取大学 三輪教授：

日野川水害タイムライン発動に関するメーリングリストについて、「メールを受信できなかった」という回答があるが、出水気前にメーリングリストを更新した際にテスト発信などはしているのか。

事務局：

メーリングリストというのは、所定のシステムで登録をし、更新するものであり、作成後に全機関に送信した際は着信確認している。しかし、メーリングリストは出水期前の6月上旬の状態であり、以降の異動については反映できていない。出水期前にテスト配信をし、受信確認を行う、またメーリングリストも定期的に更新するなど対応していきたい。

4. タイムラインの改善に向けた意見交換

- ・事務局より、意見交換会の各テーマについて説明した。
- ・意見交換会では、参加機関と事務局の活発な議論を行うため、事務局より参加機関に発言を促した。

(1) 本年度の他地域における災害を踏まえた、日野川水害タイムラインにおける懸念事項・改善点

●意見交換会

鳥取大学 三輪教授：

一昨年の台風7号による出水では、当初3日ほど前は東海地方が、400から600ミリの降雨予測であったが、結局のところ鳥取県では500ミリの降雨であった。

日々、時間帯で西へ進路がずれていくことから、鳥取河川事務所や倉吉河川国道事務所においては、タイムラインレベルが2や3など、途中から発令されたことになったと思う。こうした場合に対応するためには、タイムライン全体像を頭に入れておき、始まった時点から即座に動けるようになる必要がある。そのため、ウェビナーや出水期前の検討会において、日野川水害タイムラインシステムの全体像を頭に入れておくことが重要である。

ウェビナーは参加した全機関が有効であると回答するように、有効的な方法であるため、出水期前検討会に参加できない機関は、そういう機会に自機関の役割や全体の流れ、その中でも自機関の行動項目が何か理解しており、それを他機関と共有することが実施できた場合、日野川水害タイムラインは非常に効果的に運用できる。こうしたことを皆様にはご理解いただき、平時より日野川水害タイムラインの活動にご協力いただきたい。

今回のアンケート結果では、短いタイムライン発動期間内において、3分の1程度機関が日野川水害タイムラインを活用しており、タイムラインレベルが2、3となると全機関が活用することが想定される。こうしたことから、日野川水害タイムラインは非常に有効的なシステムであり、残すは構成機関の皆様がいかに関タイムラインを理解しているかが、日野川水害タイムラインの有効的な運用において重要である。

事務局：

本年度の台 15 号では台風が発生後 3 日間ほどでレベル準備に移行したように、日本海付近で台風が発生後、レベル準備からいきなりレベル 2 に移行することもあり得る。こうしたタイムラインレベルの移行について、今後の気候変動や危機感予測等を含め、鳥取地方気象台よりご意見いただきたい。

鳥取地方気象台：

日野川水害タイムラインは台風 3 日前から準備が進められるが、近年は台風のみならず線状降水帯においても急激な豪雨の発生により、河川の増水等が始まるケースも発生している。

また、近年は日本の近海で台風が発生後、すぐに上陸するといったケースもあり、急にタイムラインレベル 2 が発令後、臨機応変に対応する必要があることも理解した上で日野川水害タイムラインの運用を進めるようにしていただきたい。

事務局：

タイムライン全体を理解しておくことで、災害時に各機関が災害対応することができるともあり、平時より日野川水害タイムラインの理解を深めることで「人的被害の 0」につながる。

また、年々様々な災害が全国で発生しているので、見直しや改善などを重ねより良いものへとしていきたい。

米子警察署：

意見や課題点とは異なるが、資料に掲載されているような静岡県などの他県・他地域における被害事例やタイムライン、活動状況などを、こうした検討会の場を用いて構成機関に周知していただければ、実際に自分たちも災害時の運用イメージが付きやすく、より良いタイムラインになると思う。情報交換までは難しいと考えるが、一意見として挙げさせていただく。

事務局：

様々な場所で発生した課題は日野川流域においても発生する可能性もあり、こうした全国の事例における課題を収集し、タイムライン検討会や危機感共有定例会にて紹介していきたい。

(2) 情報統制に関する工夫

●意見交換会

鳥取大学 三輪教授：

メーリングリストの修正版について、タイムライン発動及びレベル移行に関する記載を強調する必要がある。現在の表記では、移行後のレベルが文章中に埋もれてしまっており、一見しただけでは内容を理解することが困難なため、括弧書きにするなど視認性の向上を図りたい。多くの情報が記載されている中で、特に何を伝えたいか、また伝えたい内容を理解しやすいか何度も修正・テストを繰り返す中で、最も見やすいものを作成していきたい。

この日野川水害タイムラインの発動に関するメールは、構成機関の行動のトリガーにあたるものであり、本年度の出水期に発信されたメールが見つからなかった・気づかなかった等あった場合は、その旨を事務局に伝えてほしい。鳥取県河川課では、日野川水害タイムライン発動時には多く情報が来る中で、メールを見逃さない工夫等あれば、教えていただきたい。

事務局：

今年の9月4日、5日に発信された日野川水害タイムラインのメールについて、内容が少し長いなどご意見もあるため、少しコンパクトにする、三輪教授よりご指摘のあった重要な個所を強調する等、改善していきたい。また、メールについて他にご意見等あればご連絡いただきたい。

鳥取県危機管理政策課：

災害時にメールを見逃さないために、メールの確認を重要視しており、それによりメールが分かりやすいようにしている。

鳥取県河川課：

危機管理政策課と同様に、メールを確認することを重要視している。近年は台風が土日に発生することが多く、防災対策会議が土曜日や木曜日と台風より少し早めに開催している。それに合わせ、各河川事務所よりタイムラインを早めに発動し、メールを確認できるようにしている。しかし、河川が国管理の河川のため、あくまで確認に過ぎないことが現状である。県では気象や水位に関する情報を独自で収集し、トリピーメールなどの情報提供に注力しており、タイムラインは情報把握として活用している。

(3) 危機感共有定例会、ウェビナーの有効活用に向けて

●意見交換会

鳥取大学 三輪教授：

ウェビナー録画配信は、構成機関に対し既に周知・配信済みであるか。

事務局：

まだ周知できておらず、本検討会終了後に配信予定である。

鳥取大学 三輪教授：

基本的には年度当初のタイムライン検討会に参加していただきたいが、都合により参加できない場合であっても日野川水害タイムラインについて学習することができるよう、構成機関の皆様にはこうした教材を活用していただきたい。

また、構成機関の方が活用する際、どこを見ればいいのか分からない等不明点が無いよう、事前の周知を徹底してほしい。

(4) 日野川水害タイムラインの「見やすさ」の改善

●意見交換会

事務局：

危機感共有定例会やウェビナーは日野川水害タイムラインの理解を深める上で重要だと考えている。他にこうした取組をしてほしい、より分かりやすいタイムラインを作る上で何が必要か等ご意見いただきたい。

なんぶ幸明苑：

当初は日野川水害タイムラインのどこを見ればいいのか等分からない状態であったが、説明を聞く中で理解することができ、今後活用していくことができるようになったと思う。しかし、この日野川水害タイムラインを活用する職員は一部であり、どの職員でも理解することが可能な手引き等あれば、他職員に対し周知しやすくなる。

なんぶ幸明苑：

初めてタイムライン検討会に对面で参加し、日野川水害タイムラインについて説明を聞いてよく理解することができ良かったと思う。しかし、平時より日野川水害タイムラインを活用する機会はなかなか無い。そのため、ウェビナー等日野川水害タイムラインに触れる機会を増やしていただきたい。

事務局：

日野川水害タイムライン情報提供システム等活用する機会が災害時しかなく、日ごろから触れる機会が少ないため、理解が進まない。

なんぶ幸明苑：

最近はインターネットに多くの情報があり、自分が必要な情報を収集する際に日野川水害タイムラインを活用することはなく、積極的に活用する癖をつけていきたい。

事務局：

日野川水害タイムラインのマルチ画面では大雨や台風の際に情報を確認するが、日常的な天気の確認等の機会を活用していくことで、システムの理解を深めることができる。より分かりやすいシステムとなるよう、今後も工夫・改善を重ねていきたい。

鳥取大学 三輪教授：

日野川河川事務所より発出されたメールの下部に日野川水害タイムラインにアクセス可能なリンクが記載されており、そこから利用することができる。

また、日野川水害タイムライン情報提供システムをブックマークし、目立つところに表示することで分かりやすく利用することが可能となる。

災害時はメールより日野川水害タイムラインにアクセスし、平時はブックマークよりアクセスすることが望ましい。

なんぶ幸明苑：

なんぶ幸明苑では、代表アドレスに日野川水害タイムラインの発動・移行に関するメールを受信後、受信したメールを担当者に展開していく流れとなるが、曜日や時間によっては確認が難しい。その場合、普段の天気予報から活用していくことが、最も適しているかもしれない。

事務局：

米子警察署は日野川水害タイムライン情報提供システムを活用しているのか。

米子警察署：

米子警察署としては、日野川水害タイムラインを自機関及び関係機関の動きの確認や参考資料としてのみ活用している。常にパソコンを使用できる状態にあるわけではないため、スマートフォン版の表示画面等を作成していただけると活用しやすい。

質疑者：日野川水害ポータルサイトより、日野川水害タイムライン解説版等の各種資料を閲覧することができるが、表示が小さく見つけることが難しい。タイムライン資料は平時より机周りに置いてあるということは難しく、ポータルサイト上で簡単に確認することができるよう、より目立つ位置や大きさに改善した方がよい。

5. 連絡事項

- ・令和8年度の日野川水害タイムラインの運用に向け、構成機関に対し「タイムラインと自機関の防災マニュアルの整合」、「防災行動項目の修正」、「担当部署、メーリングリストの変更」について、確認事項の依頼について説明した。

6. 質疑応答

米子警察署：

日野川水害タイムライン解説版には、タイムライン発動時の各機関の役割や行動、連携を一面的に整理した図面があり、非常に理解しやすい。この資料を確認することで、自機関のタイムラインレベルごとの動きや必要な情報を把握することができ、詳細な内容については概要版を確認すれば把握することができる。そのため、この図面を一つの資料として特出していただきたい。

事務局：

この図面は、タイムライン発動時に自機関の行動項目を概略的に理解することができ、三輪教授より話が合った日野川水害タイムラインの全体像の理解につながると思う。マルチ画面上に配置するなど、今後活用を検討していきたい。

米子警察署：

日野川水害タイムラインに習熟した担当者であれば、概要版や詳細版を活用することができるが、新人担当者は概要版や詳細版は必要な行動を理解することが難しい。この図面は概要版や詳細版を理解する取っ掛かりの役割を担うことが期待されるため、理解のハードルを下げるという観点で必要であると思う。

鳥取県河川課：

他流域においても話題に出たが、今後気象情報の更新に伴い、日野川水害タイムラインの発動基準等の見直しが必要である。

事務局：

気象警報の更新が予定されており、今回は大雨警報、洪水警報等の発表される仕組みが変更される。日野川水害タイムラインにおいても、警報発表の仕組みの変更に応じた、修正を検討していきたい。

7. 講評（鳥取大学 三輪教授）

- ・ 本日の目的は、日野川水害タイムラインの改善に向けた意見交換である。
- ・ 本日皆様からいただいた意見を基に、日野川水害タイムラインの改善を重ねていきたい。また、後日でも構わないため、日野川水害タイムラインについてご意見・ご希望があれば事務局に連絡していただきたい。
- ・ タイムラインに完成形はなく、実体験を踏まえた意見を募り、それを反映していくことで精査される。
- ・ 日野川水害タイムラインができてから 10 年以上が経ち、合言葉は「逃げ遅れゼロ、被害ゼロ」である。
- ・ 次回の日野川水害タイムラインの検討会は年度明けの出水期前検討会となるため、またご参加いただきたい。

8. 閉会（事務局）

- ・ 以上をもちまして、第 13 回、日野川水害タイムライン検討会を終了させていただきます。本日はご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございました。

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿、配席表
- ・ 資料 1 令和 7 年度の振り返り
- ・ 資料 2 出水対応に係るアンケート結果
- ・ 資料 3 タイムラインの改善に向けた意見交換
- ・ 資料 4 連絡事項

—以上—